

5/30 出エジプト記 20 章 1-17 節「神の愛の約束」

小池 宏明 牧師

今回は「モーセの十戒」である。聖書には「十のことば」とあるが、後の時代に「十戒」（十の戒め）と名付けられた。十戒は、人間として生きるために最も重要な基本である。

十戒は、イスラエルの民がエジプトから救い出された後で与えられた。今日においても救い出されたキリスト者の生き方を示す主のことばである。十戒の前半（3-11 節）は、主なる神様に対して、私が果たすべき務めであり、後半（12-17 節）は、隣り人に対して、私が果たすべき務めである。これは、神を愛し、隣り人を愛せよ、と命じられる主イエス・キリストの教えと共通している。

*神に対して果たすべき務め

第一から第四戒までの、神に対して果たすべき務めは、一言で言えば「神のものを奪ってはならない」ということである。神の栄光やお名前、神の時間を人間が勝手に利用したり、侵害したりしてはならない。主の愛のご支配に服従して、安らぐように求めている。

*隣り人に対して果たすべき務め

後半（第五から第十戒）は、隣り人に対して果たすべき務めを取り上げているが、一言で言えば、主が与えて下さっていること（もの）で満足しない心の動機を顧みるように招いている。自己中心に欲しがることは、他者に与える犠牲的キリストの愛とは正反対である。目に見えない心のあり方が、あらゆる問題の根底にある。隣り人を思いやる愛が乏しいならば、社会生活の崩壊につながる。

*キリストの愛に結びつくために

新約聖書のガラテヤ人への手紙で、パウロは、信仰が現れるまでの養育係として律法が存在したと言う。（3:23-26）十戒をはじめとする律法（旧約聖書）が、救い主イエス・キリストを指し示している。十のことばで自分自身を見つめるなら、自分の愚かさ、弱さ、罪深さに気付くだろう。そして、自分の罪を赦して贖って下さる救い主、御子イエス・キリストを求める祈りへと導かれるのだ。こうして、信仰によって、キリストと結び付き、神の子どもとして、主なる神様から育てられ、栄養を頂いて行くならば、神の愛が私たちの中にも注がれて、神を愛し、隣り人を愛する者へと変化して行く。信仰によって主なる神様と結び付き、キリストの似姿になっていく。

十戒は、私たちを縛ったり苦しめたりするものではない。それは主の愛であり、救い出された喜びと感謝によって、主の御心に叶った生き方をしようと決心に導くものなのである。